

病理検査

ここでは、組織検査と細胞診検査と病理解剖の3つの検査を行っています。

組織検査とは、患者様から採取したポリープや出来物、手術で切り取られた胃や大腸などの臓器の組織病変部を標本にします。

細胞診検査とは、婦人科検診などにより早期癌や前癌病変を検出する目的で行われています。また尿や喀痰などに含まれている細胞成分も標本にします。

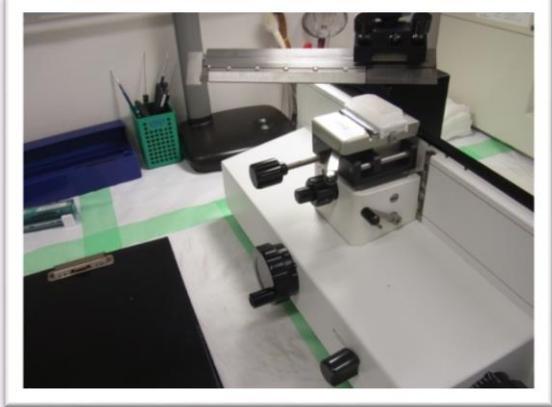
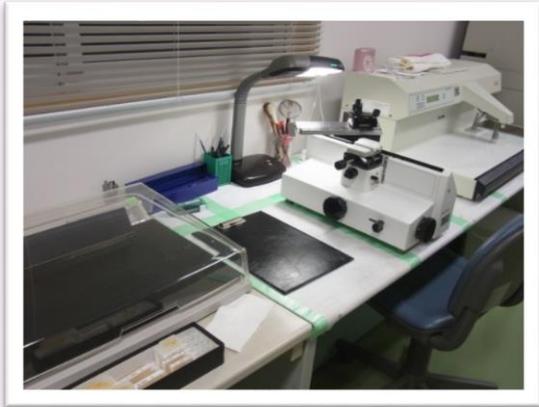
どちらもその標本から病気の分類などの診断を行っています。

病理解剖とは、亡くなられた患者様の病気の原因や、治療効果がどうであったか確認するための検証です。



組織検体はホルマリンに漬け、できるだけ生体内に近い状態で固定します。

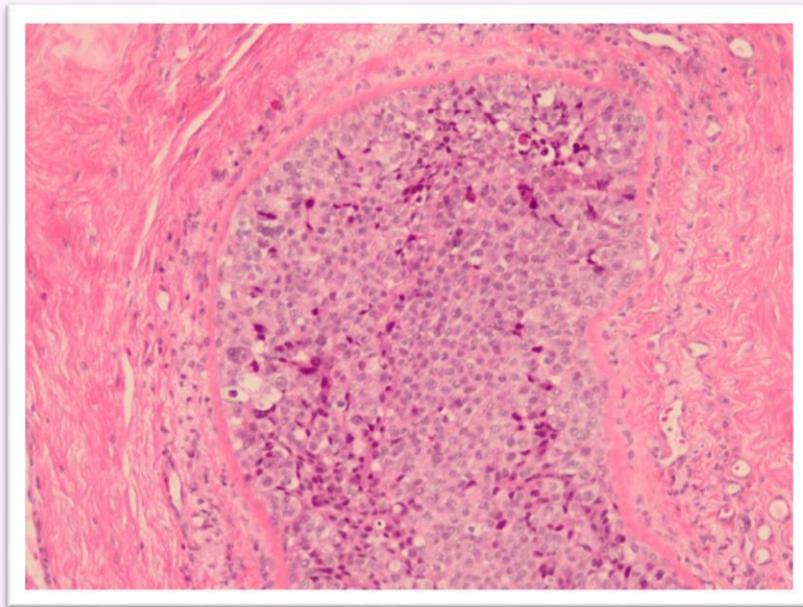
ホルマリンは人体に有害なものなので、検体を取り扱う際は感染予防や換気等の環境の整った作業室で行います。ここでは、肉眼的な観察をし、標本を作製するために組織を細かく切っています。



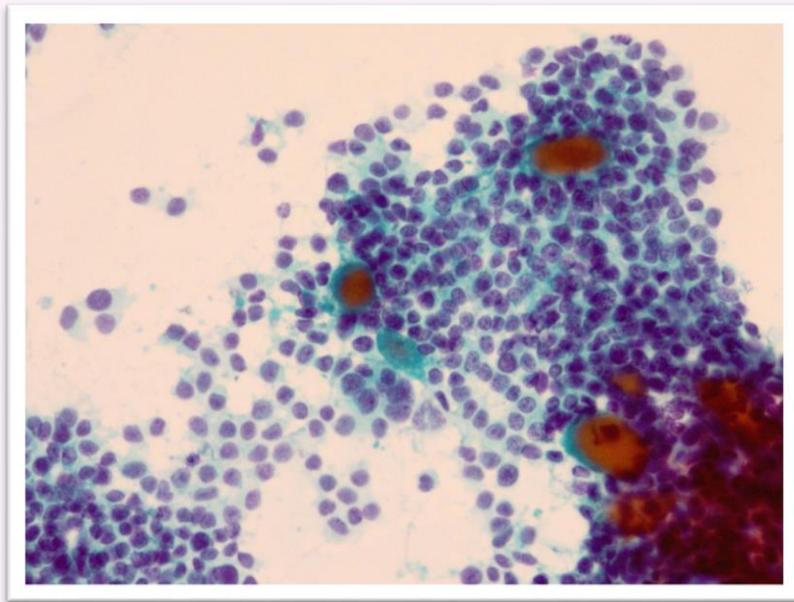
小さく切った組織をさらに薄く切って顕微鏡で観察するために、パラフィンで固め、ブロックにします。標本を $2\mu\text{m}$ ($2/1000\text{ mm}$) に薄く切り、スライドガラスに乗せて染色をします。

細胞診の場合は、直接、スライドガラスに塗って染色をします。

染色後、顕微鏡で見て診断をしています。



組織検査：乳腺の HE 染色像



細胞診検査：乳腺パピ
ニコロウ染色像



2012年に導入した遠隔診断装置 Nano Zoomer です。
染色したスライドガラスをデータ化し、他院の先生方
にも診断していただき、セカンドオピニオンにも役立
っています。